

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270100702		
法人名	有限会社 山葉福祉		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	千葉県千葉市中央区南町2-11-5		
自己評価作成日	平成26年 2月 11日	評価結果市町村受理日	平成26年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成26年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホテルを改修した建物で広々とした共用スペースと、それぞれの個室があり、自由な時間を過ごせる環境がある。自由にありのままに、楽しくゆったりと、を基本方針にし、その人らしい生活を送っていただけるよう援助している。最寄駅から徒歩3分という交通の便の良さ、面会時間などに制限をもうけないことでご家族の面会も多い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念の実践に向けた6項目の基本方針が、具体的に提示されている。施設長や管理者は、利用者がいつもと同じ環境の中で暮らし続けられる生活を大切にしている。家族の訪問を歓迎し、家族と協力しながら利用者が楽しくゆったりとした生活が送れるよう、基本方針に忠実な支援が提供されている。運営推進会議や家族会は、家族や関係する方々の多くの出席を得て盛大に開催されており、提案や要望が運営に反映され、多くの人で利用者を支えていく優れた仕組みが構築されている。開設以来、看取り対応が可能なことを伝え、常勤看護師の配置と医療連携を確立させ、利用者・家族の安心につなげている。家族からは安心して日常生活が送れることへの評価の言葉が寄せられている。理念を実現化するにあたり、家族の理解を得ながら細やかな取り組みが行われていることを評価したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在の地域の状況にあわせて住み慣れた地域でその人らしく自由に楽しく暮らし続けられるよう、認知症の特徴をふまえた環境作りとケアを提供している。その理念を研修や会議などで管理者と職員は常に共有するよう心がけている	「自由にありのままに、楽しくゆったり」という基本方針に沿って、利用者が今までのように自由に買い物や食事ができるよう支援が行われている。ケース会議等で、利用者本人の意志を尊重し、どういう風に手伝えばいいのかを話し合う事で、理念の共有化が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、できるだけ日常的なつきあいができるよう心掛けるとともに、夏祭りや敬老会の行事等に積極的に参加している。地域のボランティアを多く受け入れている。介護相談員を受け入れ交流をはかっている	地域との交流に対する取り組みは、開設来積極的に行われており、利用者に対しては大きな理解を得ている。近隣の商店や、書道等のボランティア、保育園児との交流を通じて、利用者が地域とつながり続けられるよう多くの支援の手が差し伸べられており、その取り組みは評価したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の人達に介護教室等への参加を呼び掛けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価の報告や会議の中で出た意見、要望等を会議などで報告し話し合い、サービスの向上に活かしている	民生委員や介護相談員の参加を得て、運営推進会議が開催されている。中でも、家族・利用者7組11名と多くの参加を得ている。介護相談員の話やターミナルケア等多項目が検討され、内容の充実した会議であることが会議録から確認できた。多くの意見や要望が運営に反映されており、意義深い会議となっている。	運営推進会議の参加メンバーの多彩化を図り、専門的見地からの助言を頂くなど、地域ケアについても話し合える場となることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談会や研修、話し合い等に積極的に参加し、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の高齢施設課とは、アンケート調査や提出書類の具体的な相談等で、協力関係を築くことに努めている。介護相談員の訪問やグループホーム連絡会に参加するなど、市との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に積極的に参加し、その内容を会議等で報告し話合っている。すべての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を学び理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議で身体拘束についてテーマを設け、声掛け等具体例を挙げて、身体拘束をしないケアに対する意識の向上を図っている。日常のケアの場においても、お互いに注意しあえる職場の環境作りがなされており、身体拘束は行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は研修に参加し、その内容で会議で話し合うなどして共有し、虐待について学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に出来るだけ参加するよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に体験入居を行っており、利用者や家族等の疑問や不安を解消し、相互に十分に検討する時間を作っている。解約又は改定等の際は、家族等の話し合いや説明で十分な理解を得よう心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会を通じて、家族の意見や要望を聞く機会を設けている。介護相談員を受け入れることで、利用者の意見や要望を管理者や職員だけでなく外部者へ表せる機会を設けている	家族会や運営推進会議に多くの利用者や家族が参加し、提案された意見要望は改善に活かされている。家族の訪問時に、施設長や管理者が話しやすい雰囲気づくりを心掛け、要望の把握と共有化に努めている。利用者アンケートには、家族が訪問した際には職員がよく話を聞いてくれ、相談にも乗ってくれるという意見が多く寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の全体会議を行い、職員の意見や提案を聞いている。管理者や代表者から職員に意見を聞くようにこころがけ、すべての職員が話しやすい環境を作るようにしている	施設長や管理者は、普段から職員が要望や意見を言いやすい環境となるよう、職員に積極的な働きかけを行っている。また、主任を通じて管理者に要望が伝えられるように配慮もし、運営に反映されやすいように努めている。勤務のシフトや休暇の取得に対しても、柔軟に対応している。	毎月全体会議やケース会議が開催され、具体的な事例で、ケアの在り方が話し合われている。基本方針を振り返り、理念実践について話し合える場ともなるよう、取り組みを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績に応じ給与水準を上げたり、労働条件に合わせることで働きやすい環境を作っている。休憩室の整備など働きやすい職場環境を作っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を積極的に設けたり、働きながら学ぶ機会を増やしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流会、他施設が主催する勉強会などに積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始時に介護計画を立てる上で、利用者本人の不安や希望などに耳を傾け、取り入れるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今後のライフスタイル、希望等細部に渡って聞きとり、入所後の生活に活かすよう心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の情報を集約し、その時必要としている支援を見極め、より良いケアを提供できるよう計画するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中での作業を共に行うことで職員が利用者に教えてもらったり、助けてもらったりする場をもうけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に日常の様子を具体的に伝え、利用者本人を支えるための話し合いを行っている。家族の考え、要望なども聞きやすい場を作っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会場所や時間を設けず、知人・友人が自由に面会できるよう配慮している。本人の希望に合わせた手紙のやりとり、電話での交流など、馴染みの人との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くの商店やスーパーでは、店員やガードマンから話しかけを頂くなど馴染みとなっている。よく通っていた美容院には送迎を支援し、友人や知人が訪問した際には、食堂や部屋に案内してゆっくり話し合えるよう関係の継続に努めている。フラダンスなどのボランティアとの関係も長く、利用者とは大切な馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、あいだに職員が入ることによってより良い関わり合いができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者に対しては、原則終身契約としている。退会後も必要に応じて相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向をきちんと受け止めるよう心がけている。困難な場合は家族との話し合いの場をもうけ、本人本位に検討するよう努めている	日々を共に過ごす中に出る言葉や様子から、意向や要望をくみ取っている。言葉で表現はできないが明らかに嫌だとか、辛そうな場合は、利用者にとってどうしたら良いかを家族と話し合い、なるべく深く検討し意向に沿えるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や経験を本人や家族から聞き、暮らしやすい環境作りにかかっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態やライフスタイルを記録し、職員間で共有することで現況の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族会や会議、本人との話し合いでそれぞれの意見や希望を聞き、利用者一人ひとりの特徴や要望をふまえた具体的な介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い、援助計画の効果や達成度について分析し、評価することで現状に即した介護計画を作成している	基本的に短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月で計画を作成、毎月モニタリングを行っている。変化があればその都度利用者・家族と話し合い、訪問診療医の指示を得る等、より現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に、利用者個々の日常の様子が具体的に記録され、実践や介護計画の見直しにかかっている。職員間で情報を共有し話し合い、そのつど介護計画を見直すようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況が変わったときには話し合いを行い対応方法を変えるなど、形にはまったやり方ではなく、出来るだけ柔軟な対応を心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて各機関やボランティア等と協力しながら支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者の要望、希望を聞き、協力医療機関との連絡を密にしている。利用者や家族の要望や状況によっては訪問診療や入院など適切な医療を受けられるように支援している	月に2回訪問診療医の往診がある。協力病院に受診する時には看護師が付き添い、体調の変化等を伝えている。看護師とは24時間連絡可能とし、職員の相談に対応して適切な医療を受けられるよう支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師を配置し、24時間医療体制を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には毎日職員が病室に面会し、医師や家族と話し合うことで、情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、早い段階から本人、家族と話し合う機会を儲け、方針の共有をおこなっている。訪問診療を実施し、急変等の変化に備えている	入所時に、看取りを行っていることを説明している。その上で、状況に応じ利用者・家族と相談しながら医療が必要な場合は入院へ繋いでいる。看取りを支援する場合は、看護師がいつでも駆けつけることを可能にし、個々の状態に合わせた独自に工夫された手順書を準備して、職員が落ち着いた対応が取れるよう体制を整備している。訪問診療医を含め、チームで手厚い支援となるよう心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や急変時の対応について話し合い、定期的に訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応について、定期的に訓練を行うと共に、地域との協力体制を築いている。災害に関する研修等に積極的に参加し、会議等で話し合い職員間で情報を共有している。	年3回避難訓練を行い、日中訓練の場合は近隣にも声をかけている。近隣からは理解を得、協力を頂いている。夜間の緊急事態発生時には、近くに住む職員が駆けつける体制になっている。内部研修では消防隊員から火災の実体験の話を聞き、具体的な検討を重ねている。	自力移動が困難な利用者が増えてきており、1階と2階の住み分け等が検討されている。災害時の避難に関して、消防署職員等専門家の意見を参考に、最善の対策が講じられるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等で、利用者に対する言葉かけや対応方法について話し合い、勉強する機会をもうけている。職員同士でより良い対応ができるように、注意しあっている	敬語で会話が成立する利用者、或いは気さくな会話を好む利用者等、人格を尊重しつつ個々の性格に合せた言葉かけを行っている。個人的なことは共用空間では聞かず、トイレ誘導もさりげなく行う等プライバシーを損ねない対応に徹している様子が窺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者本人の希望を聞いたり、自己決定ができるような場面を作るように心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースにあわせ、ゆったりを楽しく一緒に、を心がけながら見守りし、ケアを行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容室を利用したり、本人のお気に入りの衣類や小物を身につけることで、その人らしい身だしなみができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態をみながら、一緒に準備や片付けなどをするようにしている。好みや体調に合わせてひとりひとりにあった食事を提供している。食べたいおやつメニューを利用者に尋ねて手作りしたり、季節や行事にあわせたメニューを提供するなど食事が楽しい時間になるよう務めている	おしぼり配りやお茶入れ等、個々のできることを職員と一緒にやっている。食事は好き嫌いを尊重し、トロミは個々の嚥下状態に合わせて加減する等細やかな配慮がみられる。おせち、山芋のお餅、誕生日や季節の行事に合せた調理で、美味しい食事になるよう様々な工夫がみられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせた調理とその時々体調や能力に合わせてメニューを変更するなどして対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに本人の力に応じた口腔ケアを行い、就寝時は入れ歯の消毒を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、ひとりひとりにあわせた声かけ、トイレ誘導を行っている。必要に応じてポータブルトイレを使用し、夜間のトイレ誘導を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を誘導している。声掛けにより、オムツ使用枚数減の成果がみられる。日中はトイレで、夜間はポータブルトイレを使用し、巡回時に目覚めていればトイレへ誘導している。常に自立支援を目指して取り組んでいることを評価したい。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者個々の排便チェック表を作成し、排便パターンを理解することで、個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの要望やタイミングを理解し、希望にそった入浴になるよう支援している。本人からの要望や体調によってその都度、入浴の曜日や時間帯を変更し、対応している	看護師が入浴前に体調を確認し、週に2回入浴している。入浴拒否には、時間帯や曜日を変えたりしているが、気さくな施設長の声かけには応じる利用者もいて、施設全体で清潔保持支援に努めている。浴槽は広く、手すり等安全に配慮されており、ゆったり入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活習慣や状況を把握し、寝具や家具、空調に気を配ることで気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容や用法について、職員がわかりやすいようファイリングしており、服薬時の見守りや症状の変化の確認には気を配っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意なことから、楽しみ事を職員が理解し、一緒に行動しながら行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所の散歩や買い物へ日常的に誘い出掛けたり、月に一度はマイクロバスを利用し遠出している。家族と話し合い、家族と利用者が出かける機会が多くもてるよう支援している。	日々スーパーへ買い物に出かけている。家族と外出することも奨励している。毎月レンタカーを借りて、5時間程度の遠出をしている。次回は苺狩りを計画し、利用者にとって毎日楽しい話題となっている。車での外出は、全職員と殆どの家族が参加している。バリアフリーで車椅子の借用も可能な所を探し、気分転換を図る支援の取り組みが、こまめに行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じてお金を所持することを理解し、買い物など自由にできるよう配慮している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人からの電話、手紙は自由に使えるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間を広く取り、温度設定や家具の配置などに気を使っている。季節感のある花や利用者それぞれが作成した書道やレクリエーションの作品を飾るようにしている。誕生日会や行事、マイクロバスでの遠出した思い出の写真などを、共有スペースに展示している。	明るく広い共用空間は、初詣やハロウインの写真、習字、お雛様が飾られ華やぎがある。掃除が行き届き、家族からは「気持ちが良い」「季節の飾り物は心や目に嬉しい」と、施設の良い所として多くの感謝の言葉が寄せられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファやいす、テーブルを置き、自由に使えるようにしている。時間や場所に制限はもうけず、思い思いに自由に過ごせるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具、雑貨など自由に持ち込んでもらい、荷物の制限は行わず使い慣れたものや好みを活かして居心地よく過ごせる空間を作れるよう支援している。季節の花を飾ったり、レクリエーションの作品や写真を飾っている。	レクリエーションで作った作品や絵画、テレビ、仏壇、冷蔵庫等を置き、自分の寛げる部屋にしている。職員は冷蔵庫内の食品の賞味期限の確認等を行い、健康で過ごせるように支援している。家族からは「気持ちよく過ごせる心遣い」や「部屋が清潔である」といった点に対する評価が高い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの身体機能や状態を理解し、職員が見守ることで安全かつ自立した生活が送れるようにしている		